

南海日々新聞 掲載

令和3年7月5日（月）

群島リポート



榎原麻美さん



西田夢美さん



荒井あゆみさん

東城小中特別授業

世界の問題「まず知って」

海外協力隊から現状学ぶ

「世界の現状と日本は無関係じゃない。まずは知ることから始めよう。」国際支援をける青年海外協力隊経験者による特別授業が、このほど、東海市住居町の東城小中学校（水井孝典校長、児童生徒30人）であった。参加した中学生12人は、深刻な問題を考える国や地域の現状を学び、身近でできる取り組みを考えた。（発行単位）

青年海外協力隊は、日本が、満足に食べることができない行方政府開発援助の一環で、国際協力機構（JICA）が派遣する制度。同校で英語を教える西田恵子（教諭30）は、神奈川県横浜市出身。も隊員を経験していた縁で、知人の経験者3人を講師に招いた。

■食糧より多い食品ロス

福島県福島市出身の西田あゆみさん（31）は、世界最高峰エベレスト（標高8848m）に南麓の南アジア・ネパール（人口約3000万人）で、環境教育に取り組んだ。授業では、世界の食料不足や食糧失調、食べられるのに捨てられる「食品ロス」に気づいた。

「日本の食品ロスは年間約600万トン。国連による食糧支援量の1・5倍とされる。穀物は世界人口を養えるほど生産されているが、家事の間に使われる量も多く、その肉は主に先進国で消費される。貧しい地域の人たちは

「海外の現状と日本は無関係じゃない。まずは知ることから始めよう。」国際支援をける青年海外協力隊経験者による特別授業が、このほど、東海市住居町の東城小中学校（水井孝典校長、児童生徒30人）であった。参加した中学生12人は、深刻な問題を考える国や地域の現状を学び、身近でできる取り組みを考えた。（発行単位）

青年海外協力隊は、日本が、満足に食べることができない行方政府開発援助の一環で、国際協力機構（JICA）が派遣する制度。同校で英語を教える西田恵子（教諭30）は、神奈川県横浜市出身。も隊員を経験していた縁で、知人の経験者3人を講師に招いた。

■食糧より多い食品ロス

福島県福島市出身の西田あゆみさん（31）は、世界最高峰エベレスト（標高8848m）に南麓の南アジア・ネパール（人口約3000万人）で、環境教育に取り組んだ。授業では、世界の食料不足や食糧失調、食べられるのに捨てられる「食品ロス」に気づいた。

「日本の食品ロスは年間約600万トン。国連による食糧支援量の1・5倍とされる。穀物は世界人口を養えるほど生産されているが、家事の間に使われる量も多く、その肉は主に先進国で消費される。貧しい地域の人たちは

「海外の現状と日本は無関係じゃない。まずは知ることから始めよう。」国際支援をける青年海外協力隊経験者による特別授業が、このほど、東海市住居町の東城小中学校（水井孝典校長、児童生徒30人）であった。参加した中学生12人は、深刻な問題を考える国や地域の現状を学び、身近でできる取り組みを考えた。（発行単位）

青年海外協力隊は、日本が、満足に食べることができない行方政府開発援助の一環で、国際協力機構（JICA）が派遣する制度。同校で英語を教える西田恵子（教諭30）は、神奈川県横浜市出身。も隊員を経験していた縁で、知人の経験者3人を講師に招いた。

■食糧より多い食品ロス

福島県福島市出身の西田あゆみさん（31）は、世界最高峰エベレスト（標高8848m）に南麓の南アジア・ネパール（人口約3000万人）で、環境教育に取り組んだ。授業では、世界の食料不足や食糧失調、食べられるのに捨てられる「食品ロス」に気づいた。

「日本の食品ロスは年間約600万トン。国連による食糧支援量の1・5倍とされる。穀物は世界人口を養えるほど生産されているが、家事の間に使われる量も多く、その肉は主に先進国で消費される。貧しい地域の人たちは

6月24日に、第1回家庭教育学級で、中学生・保護者向けに国際理解教室を開催しました。発展途上国の生活や文化、ゴミ問題、世界で起きている問題について考え、自分たちにできる活動について意見交換しました。